

日立ソリューションズ 竹田 広光社長



新型コロナウイルスの状況などが見通せないもののニューノーマルが続くことは間違いなく、21年も引き続き、得意事業の「モバイル」「セキュリティ」「AI・IoT」「働き方改革」の4領域にリソースを集中させ成果につなげていく。

昨年はコロナの影響で一部プロジェクトに遅れが出たが、重点領域は確実に進展してきた。中でもコロナに対応したデジタル

トランスフォーメーション(DX)化を進める動きが出ており、モバイルやセキュリティ、働き方改革に関する引き合いは多い。現在は日立ソリューションズグループで連携し「ニューノーマル対応ソリューション群」を仕立てている。

に人材を強化。セキュリティ専任技術者(ホワイトハッカー)の育成にも取り組み、ホワイトハッカーの認定試験CEHの合格者は9人になった。

ポットでのPOCが計15件ある。事業化した案件も5件となった。当社は今あるものにAIをプラスして新たな価値を見いだす「AIプラス」を提案している。今後もAI人材の育成に努め、20年度中に社員1千人を目標にAIの教育を進める。

モバイル、セキュリティなど 4領域にリソース集中

21年は4事業領域に選択・集中するほか、テレワークを支援できるソリューションを拡

強化しているモバイルでは、主力ソリューション「モバイルスクエア・プラス」の提案を進めるほか、テレワークを支援する「テレワーク向けシステム運用支援ソリューション」を発売した。

を務めるサイバーセキュリティのオンライントレーニングサービスを始め、引き続き日立製作所、日立ソリューションズと連携してセキュリティ支援を進めたい。

併せて、3年後、5年後を見据えた技術習得なども推進したい。

ユーシオンの拡充とともに

セキュリティではソリ

も着実に案件が増え、現在、検査判定やチャット

※本記事は、発行元の許可を得て掲載しております。